

令和6年度

和歌山県よりよい生き方を実践する力を育む
道徳教育の推進事業 道徳教育研究発表会

研究紀要

〈研究主題〉

夢や希望をもち、よりよく生きようとする心を育てる道徳教育
－生徒が主役となる道徳科の授業改善を中心に－



海南市立下津第二中学校

はじめに

子供達を取り巻く環境は大きく変化し、そのスピードも速く、今の中学生が社会人となるころの社会を想像すらできません。子供達には、社会を生き向くために変化への対応をしながら、今までとは異なるスキルも求められています。

そんな中で、子供達は自身の将来に向けて、自己を見つめ、他者を見つめ、多種多様な人と関わり、じっくりと自分の世界を広げていき、社会の一員としてより良く生きていくためにはどうすればよいかを自分事として考え実践できる力がより必要になってきます。

令和5・6年度と「和歌山県よりよい生き方を実践する力を育む道德教育の推進事業」に取り組むこととなり、当初、「生徒が主役となる道德科の授業研究」として研究を始めました。研究を進めていく中で改めて本校の道德教育を見直し、授業だけではなく、学校教育全般において生徒の良さを伸ばし成長させていく道德教育を目指し、「夢や希望をもち、よりよく生きようとする心を育てる道德教育～生徒が主役となる道德科の授業改善を中心に～」と主題を再設定し、教職員一丸となって取り組んでまいりました。

まずは、授業改善に着目し、統一した授業形態を構築するために、畿央大学 教授 島 恒生 先生からご指導を受け、生徒達の考えが深まり自分事として考えられる効果的な授業展開について研究しました。授業は担任、副担任に関わらず教員全体で授業を行い、教員が同じ方向性を持って授業改善に取り組みました。生徒の中でも「道德科の授業では自分の意見を言っても大丈夫だ」「意見を言うこと、表現することは恥ずかしいことではない」という意識が芽生え、意見交換をすることが当たり前の授業風景になってきました。発表はしなくても、文章として自分の意見を表現できる生徒が増え、その変容を見て取ることで、道德科の授業に対する教員の意識も変わってきています。それらの生徒の変容が教員の自信になっています。さらに、各教科や学校行事が道德科と深く関わっていることを再認識するため別葉を作成しました。学校生活全体で下津第二中学校の道德科の基礎を作り、実践することで、道德的価値について学校生活全般で意識させることにより、自分事として深く考えることができる生徒の育成につなげていきたいと考えています。

本日ご参加いただいた皆様には、これからの本校のためにも忌憚のないご意見、ご指導をお願い申し上げます。

最後になりましたが、畿央大学教育学部現代教育学科教授 島 恒生先生 をはじめ、和歌山県教育委員会、海南市教育委員会の皆様、下津町管内の小中学校の先生方に温かいご指導、ご助言を賜りましたことを心から感謝申し上げます。

令和6年11月
海南市立下津第二中学校
校長 田上 智世

目 次

はじめに

I 学校概要

1 学校概要	1
2 下津第二中学校スクールプラン	2

II 研究概要

1 研究主題	3
2 研究主題設定にあたって	3
3 研究課題	3
4 研究の進め方	4
5 道徳教育全体計画	5
6 研究について	
(1) 研究組織	6
(2) 道徳科年間指導計画	7
(3) 授業研究部における取り組み	
① 基本的な授業の流れについて	10
② 授業づくりシートの活用	11
③ 学習指導案・公開授業案における様式	12
④ 授業交流と教材研究・協議	20
(4) 全校における道徳性を育む取組	
① 道徳科と教科等との関連（別葉）	21
② 異学年交流の充実	27
③ 道徳科と体験活動との関連行事（全体）	28
④ 道徳科と体験活動との関連行事（学年）	29
⑤ 道徳的実践の場とした委員会の活動	31
⑥ 道徳性を養うための環境整備	33

III 研究における成果と課題

IV 実践内容

1 令和5年度・令和6年度 授業実践のあゆみ	1
2 令和5年度実践	
(1) 3年A組実践「心にしみこむ“言葉”の力 - 池上 彰」 【B(9)「相互理解、寛容」】	4
(2) 2年B組実践「宝塚方面行き - 西宮北口駅」 【C(10)「遵法精神、公德心」】	8
(3) 2年B組実践「誇りをもって生きるとは・・・」 【C(22)「よりよく生きる喜び」】	13
3 令和6年度実践	
(1) 3年B組実践「スイッチ」 A(1)「自主、自律、自由と責任」	20
(2) 1年A組実践「席替え」 C(11)「公正、公平、社会正義」	25
(3) 2年A組実践「左手でつかんだ音楽」 A(4)「希望と勇気、克己と強い意志」	30

I 学校概要

Ⅰ 学校概要

(1) 海南省立下津第二中学校 校歌

一 長峰の尾根はやわらか 加茂の郷
ひらく山々 日々にみて
世紀のいぶき 新しく
学びのまどの すがしきよ
誠実の 誠実の道
此処にあり 此処にあり

二 加茂川の流れ清らに 加茂の郷
新しき世に おくれじと
七百の友 手を組みて
彼方に行かん はるけくも
真実の 真実のかね
此処にあり 此処にあり

三 潮風の塩津大崎 加茂の郷
吹きなごむべし 大海の
広き心の 影みえて
三年の睦み なつかしや
愛惜の 愛惜の盾
此処にあり 此処にあり

(2) 所在地・概要

①所在地

〒649-0133 和歌山県海南省下津町下 287 番地 2

TEL (073) 492-2047 FAX (073) 492-5562

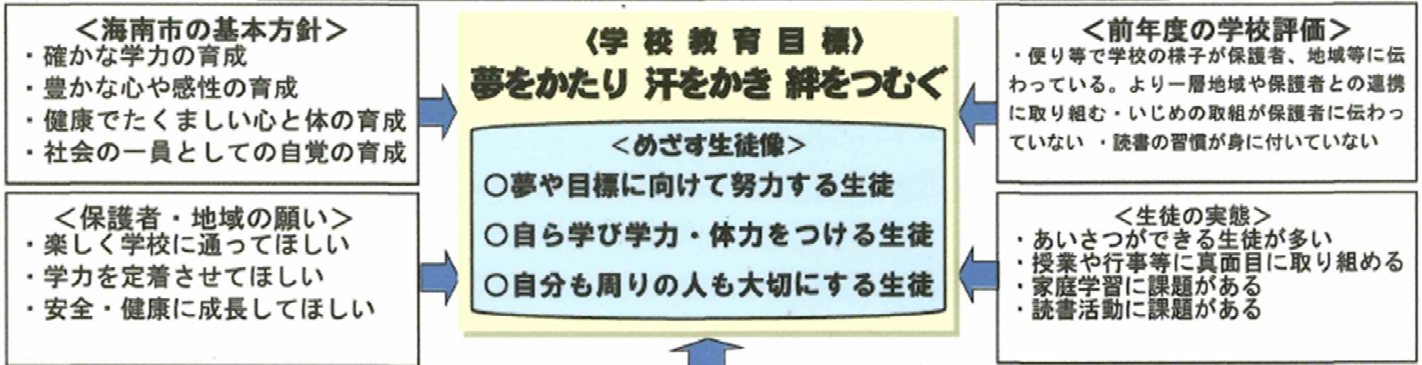
②校区の様子

校区は、加茂第一地区、加茂第二地区、仁義地区、大東地区、大崎地区、塩津地区の6地区によって成り立っている。校区の特徴として、山間部と沿岸部に位置しており、下津の蔵出しみかんなどの農業、沿岸部ではしらすといった漁業、地元企業では除虫菊を活用した品物やプラスチック製品、5本指ソックスなどの産業が盛んである。

令和5年に「道の駅 サクアス」がオープンし、地元の特産品の販売や産物を活かした食事の提供を行うことで、県内外問わず多くの来客が訪れている。また、海南省から有田市までの国道42号線「有田海南道路」の延伸工事が進んでおり、海南省冷水から下津町を通過する道路が令和7年春に開通予定となっている。

下津第二中学校では、通常学級4、特別支援学級1の計5学級、全校生徒104名である。生徒は男女分け隔てなくコミュニケーションを取ることができ、真面目で活発な様子が見られる。下津第二中学校の伝統を受け継いでいる行事として、生徒が主体となって創り上げる体育祭や合唱大会、清掃時間は喋らず、隅々まで掃除に取り組む「無言清掃」がある。部活動については運動部5つ、文化部2つの全7つの部があり、どの部も日々の練習に熱心に取り組んでいる。令和6年度は、海草地方夏季総合体育大会で3つの部が県大会に出場を果たすなど活躍している。また駅伝部は、年間を通して積極的に練習に取り組み、これまでに近畿駅伝や全国駅伝への出場経験がある。

地域との連携も活発で、令和3年度には、約10年にわたって地域住民と共に防災学習に取り組んできたことに対して消防庁長官賞、内閣総理大臣表彰を受けた。



本年度の重点目標

自ら学ぶ力を育て、確かな学力をつける

- ①わかる喜びが実感できるよう授業を改善する。
 - ・知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力を育成し、主体的に学習に取り組む態度を養う。
 - ・チーム・ティーチング等の工夫改善を行い、個別最適な学びと協働的な学びを充実する。
 - ・特別支援教育の視点を大切にする。
- ②「主体的・対話的で深い学び」について研究を深める。
 - ・「深い学び」、「ICTの活用」、「指導と評価の一体化」について研究を深める。
- ③読書と家庭学習を充実する。
 - ・朝読書や家庭読書など、習慣化に向けた取組を充実する。
 - ・家庭学習の充実に向けた取組を行う。

豊かな心や感性を育む

- ④感動があり、活気のある学校生活を創造する。
 - ・行事や生徒会活動などで生徒の自主性を育成し、多くの感動体験を味わわせる。
- ⑤いきいきとした学校づくりを推進する。
 - ・温かい人間関係や心の居場所としての学級・学年づくりを目指した活動を充実する。
 - (いじめ撲滅と話し合い活動の推進に取り組む。)
 - ・人権教育を推進し、自分と周囲の人との関わり、障害者理解、命の重みについて考え、互いの人権を大切にする
- ⑥道徳性を育成する。
 - ・特別の教科道徳を要として、学校教育活動全体を通じて道徳教育に取り組む。

健康でたくましい心と体を育てる

- ⑦生徒の生活実態を把握し、正しい生活習慣と、秩序ある校風を創造する。
 - ・挨拶・授業規律・清掃を重視し、清潔感に満ち、落ち着いた雰囲気を作る。
 - ・一日や授業の始まりと終わりを大切にする。
 - ・スマホ、ゲーム機等の適切な使用について啓発する。
- ⑧欠席しがちな生徒への支援の充実を図る。
 - ・家庭・SC・関係機関と密に連携し、組織的に支援する。
- ⑨体力の向上と部活動の充実を図る。
 - ・自主的な活動を育て、仲間との連帯感を培うとともに、気力・体力・技能・礼儀を向上させる。
 - ・駅伝や運動を勧め、競技力の基礎となる走る力を強化する。

地域とともにある、信頼される学校づくり

- ⑩学校情報を積極的に発信するとともに、ボランティア活動に積極的に取り組み、市民性を身に付けさせる。
 - ・生徒会での福祉活動を充実する。
 - ・行事や総合的な学習の時間に、できるだけ多くの保護者や地域の人々等が参加できるように工夫する。
 - ・学校運営協議会において、地域とともにある学校になるために、地域住民及び保護者と協議する。
- ⑪総合的な学習の時間で体験的な学習の充実を図る。
 - ・地域等と連携した体験的な活動を通じて、自己を理解させ、将来の生き方を考えさせる。
- ⑫防災の意識を高める。
 - ・地域住民とともに、将来の災害に対応できる知識と行動力を身に付けさせる。

重点目標にかかる指標

- ① 生徒アンケートで、「授業がわかる」の問いに肯定的な意見が90%以上となる。
- ② 授業改善に向けて、教員全員が研究授業を年1回以上実施する。
- ③ 生徒アンケートで、「1日に2時間以上家庭学習をする(塾等も含む)」の肯定的な意見が60%以上となる。
- ④ 生徒アンケートで、「活気ある学校か」の問いに肯定的な意見が90%以上となる。
- ⑤ 生徒アンケートで、「学校が楽しい」の問いに肯定的な意見が100%となる。
- ⑥ 生徒アンケートで、「トイレのスリッパを丁寧にそろえる」の問いに肯定的な意見が90%以上となる。
- ⑦ 生徒アンケートで、「そうじの取組」の問いに肯定的な意見が90%以上となる。
- ⑧ 教員アンケートで、「欠席しがちな生徒への連携した支援」の問いに肯定的な意見が100%となる。
- ⑨ 体力テストの結果が、実施種目2/3で全国平均を上回る。
- ⑩ 学校運営協議会による学校評価で、「地域との連携」の問いに肯定的な意見が90%以上となる。
- ⑪ 生徒アンケートで「体験的な学習」の問いに肯定的な意見が90%以上となる。
- ⑫ 生徒アンケートで、「防災学習」の問いに肯定的な意見が90%以上となる。